

ブルジョア国の選挙はみな、

労働者の統一と選挙

「統一」という空語は、解党派の新聞『ルーチ』にみちあふれている。ところが同紙は、——『プラウダ』の寄稿者が正しく指摘しているように——統一を破壊するために、**選挙日**に発行されたのである。

ペテルブルグ県の労働者クーリア選挙の決定的な瞬間は、数日のうちにせまっている。すなわち、十月五日、金曜日である。この日に労働者選挙代表は六名の選挙人を選挙するのであろう。決定的意義をもつものは、まさに**この選挙**なのである。なぜなら、選挙人が全部しっかりした、一貫した労働者民主主義者で解党派の反対者でなければ、自覚した労働者の大多数にのぞましい議員を国会に選出する重大な保障はなにもないからである。

決定的な瞬間に屈伏するようなことがないためには、労働者民主主義者の任務と選挙代表が行動するにあたっての情勢とをはっきり理解する必要がある。

いま問題の全本質はつぎの点にある。すなわち、解党派は、統一をさげびながら、それにかくれてペテルブルグの自覚した労働者の大多数の意志に**そむいており**、また労働者の大多数に**少数**のインテリゲンツィアの、すなわち解党主義的インテリゲンツィアの分裂主義的候補者をおしつけている。

ブルジョア国の選挙はみな、空文句の狂宴と無制限な空約束とを伴っている。社会民主党の基本原則は、言葉を信じるのではなく、問題の本質を究明することである。

解党派がその新聞『ルーチ』にかかげている統一という空文句は、まったくのうそである。**実際には統一**はすでにペテルブルグで、**解党派に対抗して**自覚した労働者の大多数によって作りだされており、五月の進出によって作りだされており、労働者の五五〇のグループが解党派の一六のグループに対抗して『プラウダ』を支持していることによって作りだされているのである。

これは空文句ではなく、事実である。五五〇のグループが一六のグループに対抗して結束しているならば、これは**統一**とよばれる。一六のグループが「自分の」候補者を五五〇のグループ**におしつける**ならそれは分裂である。

解党派は統一をさげびながら分裂させている。それは泥棒が逃げながら「泥棒をつかまえろ」とさげぶようなものである。

自覚した労働者は、無内容な絶叫や空文句にだまされてはならない。

言葉を信じないで、冷静に事態を見たまえ。マルクス主義的労働者の圧倒的多数は、解党派の敵である。解党派にしたがっているのは、ほんの少数の労働者であって、解党派の「強み」は、つまらない雑誌を出したり、選挙日に新しい新聞を創刊したり、インテリゲンツィアの選挙委員会のために「つながり」や人を手にいれたり、等々できるブルジョア的インテリゲンツィアである。

これらの事実は、ピーテルのどの社会民主主義者にも知られている。

解党派のあげている統一という叫び声がどんな意味をもつか、ここから明らかになる。この叫び声にかくれて、解党派に共鳴するブルジョアのインテリゲンツィアは、**労働者の統一を破壊し**、労働者に解党派の候補者を押しつけようと考えているのである。

ここに問題の本質がある。解党派の『ルーチ』の「こみいったからくり」とはこうしたものである。

マルクス主義的労働者の統一をほんとうにのぞんでいるものは、反解党派の選挙人が全部選出されるのをたすけなければならない。

ほんとうの統一をのぞむものは、自覚した労働者の大多数の意志を実現するのをたすけるものである。

少数派がこの意志にそむくものをたすけるものは、統一についてどんな大げさな空文句をさげびたてようとも、最悪の分裂主義者である。

第 36 卷『労働者の統一と選挙』P204～206

1912 年 9 月末に執筆

ポイント

ブルジョア国の選挙はみな、空文句の狂宴と無制限な空約束とを伴っている。社会民主党の基本原則は、言葉を信じるのではなく、問題の本質を究明することである。